

国内研修報告書

今回国内研修として行ったのは秋田県山本郡藤里町です。私は今回がこれで 5 回目の秋田になります。ですが今回はスケジュール調整や内容の決定は協力していただいたものの、初めて社協さんの管轄外で活動を行いました。自分たちが行きたいもの・参加してみたい行事・みてみたい藤里に、自ら行く。これまでもそうしてきたつもりでしたが、見えてくるものはかなり違いました。

藤里の方々の構えない姿勢、どこに行っても歓迎して向かい入れてくれる温かさ、雪国で、とても寒い地域なはずなのに、とてもぼかぼかした気持ちで 2 泊 3 日を過ごしました。

今回体験した中で特筆したいものは①マスコット作りと②味噌づくり体験です。

マスコット作りは町の中のかもや堂というところで行われました。去年一昨年か去年改装したばかりのとてもきれいな場所です。講師の方は社協の職員の方の旦那さんで、どんな方なのかと構えていましたが、とても穏やかで優しい方でした。まず講師の方のこれまでの作品を見せて頂き、その駒形さ完成度の高さに驚きました。丁寧な仕上がりで、本当に感動しました。羊毛の質感のあたたかさがより一層作品の素敵さを増加しているなど思いました。

ひとしきり作品を見させていただいた後、早速羊毛が配られ、専用の針で刺していくことを教えて頂きました。針の仕組みも教えて頂きましたが、羊毛に針をさしていくだけで、どうして素敵な作品になるのか、全くわかりませんでした。

羊毛を片手で丸めてつついていくので、最初は指に針をさしてしまうことがありました。普通に痛くてちょっとびっくりしたけど、よけい燃えました。絶対自分で完成させるのだ、と思いました。それに、たくさんちくちくしていくうちに、本当に丸くなっていくのです。とても不思議でした。ちくちくしていく中で、講師の方といろいろな話をしました。どうして始めたのか、とか、藤里の話とか、たくさんです。

私は犬を作りたいとあっていて、犬の鼻先、頭、後頭部と意識してちくちくしました。でもなかなか難しく、みんな、最初は和気あいあいとして雰囲気であったのに、真剣に、無言になっていきました。

頭が完成し、今度は耳・模様作りをし、だんだん形になっていって、わくわくしました。最後は、目を入れて完成です。みんなとってもかわいいマスコットが作れました。

講師の方が私たち一人ひとつずつ、過去の作品を持って行っていいよとってくれて、ひとつもらいました。私はひよこをもらいました。とてもかわいくて、今家で飾っています。

②味噌づくり体験では、本当にお味噌を作っている工房に案内してもらって、工房の奥から出てきたのは優しそうなおばあちゃんでした。マスクも頭巾もしていたので、顔は目くらいしかわかりませんでした。目と声がすべてを語っていました。

最初はお味噌づくりをなぜ始めたのか、食育についてお話してくれました。「大豆という言葉は知っているのに、目の前の豆が大豆ということが分からない子どもを見た時、これではだめだと思ったの」と。

おばあちゃんはとても熱心で向上心があり、お話は聞いていてとてもわくわくするものでした。これからお味噌を教えていたけるのだと思うと、本当にうれしくて、この体験にこれだけよかったとすでに考えたりしていました。

お味噌づくりがいよいよ始まりました。煮豆と、塩と、酒麴が用意され、まず塩と酒麴を手でさっくり混ぜた後、煮豆を加え、また混ぜて、そしてプレスサーというか、ミンチにかけました。ひき肉のようにミンチになっていく煮豆たちを見て、おいしそうだなと思いました。

このミンチになったひき煮豆たちを、今度は全体量を6等分にして、分けたものをくるくる丸めていきます。「やさしくおにぎり作るのよ」とおばあちゃんは言っていました。丸めた後は、容器の中にビニールぶくろを入れ、そのビニールの中におみそをたたいて入れる作業でした。おにぎりは優しく、入れるときは強く、とのことで、必死にたたきつけていきました。

そうして、袋を閉じ、お味噌づくりは完成です。終わった後、おばあちゃんが、きりたんぼを教えてくださいました。きりたんぼの木の作り方もお話してくれつつ、きりたんぼをみんなで作り、ホットプレートで焼きました。焼いた後、おばあちゃん特性のごまみそを持ってきてくれ、それをかけて、それからおばあちゃんが作ったお味噌で作ったお味噌汁をふるまっていたら、最高のおひるごはんができました。またなた漬けも出してきて、本当にどれも最高においしかったです。

おばあちゃんが作っているというバター餅などのお土産もたくさん持たせてもらったので、本当に楽しくてぼかぼかで幸せな時間でした。本当におばあちゃんちに遊びに来ているような感覚でした。おばあちゃんも「こんなにお話きいてくれる子たちなんていないから、話につい熱が入っちゃった」とも話してくれ、本当にうれしかったです。

体験を通して、藤里の人々は本当にすべてがすべて尊いと思いました。みんながみんな、やりたいこと・やるべきことを見つめて、それに向かって動いてゆく。人が減って、高齢化が進んで、それでもみんな輝いている。やらされてる人なんて一人もいないし、キラキラみんな生きている。限界集落と言われてもおかしくない環境で、だれひとり苦しい顔なんてしていませんでした。ぼかぼかして、あたたかく、本当に、第二の故郷だなと感じました。

今回初めて社協さんと別の行動をして、でも会いたい人は沢山いて、待っていてる人もたくさんいて、本当に幸せなことだと思いました。「また夏も来るんでしょう」「また遊びにいでね。まってるから」としわれる幸せとありがたさ。私は秋田にこれだけ本当によかったと、これからもいけるかぎり何度でもいきたいと、思いました。